

電気俱楽部) 出席者: 伊藤幹事長, ほか 16 名。  
(9) 第5回騒音振動委員会 (41.10.18, 土木学会関西支部会議室) 出席者: 庄司委員長, ほか 16 名。

(10) 騒音振動委員会幹事会(第1回) (41.10.17, 土木学会関西支部事務局) 出席者: 畑中幹事長, ほか 5 名。

#### (11) 商議員交代

商議員 橋高 俊二氏 運輸省航空局監理部飛行場計画課長へ転出のため後任として運輸省第三港湾建設局神戸港工事事務所長 日下 宏氏を委嘱した。

(12) 関西支部年次学術講演会 (41.11.13, 大阪市立大学)

特別講演: 都市交通における諸問題  
大阪市立大学名誉教授  
経済学博士 富永 祐治

一般講演: 117 題  
参加者: 373 名

(13) 淀川に関する研究会 (41.11.11,

#### 大阪科学技術センター)

##### 題目と講師:

- ① 淀川水系の現況 近畿地方建設局河川部長 川崎 精一
- ② 航空写真による洪水流の解析 自由学園最高学部教授 工博 木下 良作
- ③ 淀川水利用の現況 近畿地建淀川工事事務所長 宮崎 明
- ④ 淀川河口部の高潮について 大阪府土木部高潮課長 松本 正

##### 討論

司会: 近畿圈整備本部調査官

藤野 良幸

参加者: 138 名

(14) 第2回学生見学会 (41.11.24)

見学先: 大阪空港工事 (A ランかさ上げ工事, B ラン工事, エプロン工事, ハンガー工事等) 大阪市地下鉄工事 (5 号線今里付近)

参加者 62 名, 参加費 50 円

(15) 学生映画会(第2回) (41.11.12,

#### 大阪府立工業高等専門学校)

上映映画: ① 鉄道一東海道新幹線工事記録を中心に— ② 軟弱地盤の改良 ③ 新しい橋 (DW工法) ④ くろよん

参加者 142 名 {正会員 22名  
{学生会員 120名

(16) 第7回幹事会 (41.11.22, 中央電気俱楽部) 出席者: 小西支部長, 伊藤幹事長, ほか 12 名。

(17) 第6回騒音振動委員会 (41.11.15, 土木学会関西支部会議室) 出席者: 関係者 19 名。

(18) 騒音振動委員会幹事会(第2回) (41.11.15, 土木学会関西支部会議室) 出席者: 畑中幹事長, ほか 5 名。

#### (19) 騒音振動委員会委員交代

委員 田中茂穂氏 日本道路公団大阪支社瀧野工事事務所長へ転勤のため後任として日本道路公団大阪支社工事部工事課長 竹中弘起氏を委嘱した。

編	集
後	記

一昨年以来、本誌の新年号ではこれからの土木界の重要な共通課題をとらえて特集を編集している。しかもそのテーマは単に土木界の共通課題というに止まらず、土木技術者としての連帯意識の意味を呼びかけようという編集者の意図が含まれている。

土木技術の“総合性”という特性の故に、土木内の個別の分野の発展は、ともすると土木工学を分解させる可能性をねに抱いているともいえる。にもかかわらず、土木工学としての一体性が必要であるとすれば、それは具体的にどういう点に求められるか。あるいはその一体性が發揮されれば、どういう効果があるのか。学会はそれを追求し続けなければならないまい。学会誌は、将来を眺めつつその問題点を提出する義務があろう。新年号の一連の特集意図を、この観点から会員の皆さんに理解して下されば幸である。

今年は「世界の中のわが土木界」という大テーマが選ばれた。全部が依頼原稿である今回の特集は、ご覧のよ

うに論説、解説、座談会などによって多彩に組まれている。幸いにして、執筆者各位は期待通り全力投球をして下さった。テーマが大きいだけに、まだまだ不足な論点があるのは当然で、それらは今後の学会誌上において展開されるであろう。

50周年記念事業のひとつとして行なわれた映画コンクールが好評であったので、昨年11月に2回目の映画コンクールが学会主催で行なわれた。その審査結果と作品の紹介が本号に掲載されている。土木関係のすぐれた記録映画が大量に生産されてきた折から、これもまた会員の关心をひくであろう。

例年通り、今年の新年号にも懸賞論文の優秀作が掲載されている。これを参考に次回にも多数の応募をお待ちしている。

書評欄が装を新たに充実して登場してからちょうど1年になる。好評なので、さらに新機軸を生み発展させたいと考えているので、ご愛読ご支援をお願いする。

(高橋 裕・記)

## 工事報告書類の出版について

学会では多くの出版事業を行なっていますが、そのひとつに工事報告書類の出版があります。関門トンネル、若戸橋、一つ瀬・杉安ダム、黒四発電所など、それぞれ企業主と十分に協議のうえで出版したもので、工事の特色と重要度、報告書に書込まれる内容、出版事業としての採算など出版企画委員会で検討のうえ処理いたしますからご相談下さい。窓口は事務局編集課 (351-5130) です。